うさぎとかめの通信　　上越市立高田幼稚園

（園長室だより）　１０８周年
令和６年１０月３１日　　第１９８

HP の QR コード→

「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

☆個と集団の関係～一人一人が生きる集団～☆

３歳児のもも組教室の前を通りかかった時に、もも組のＡちゃんが「園長先生、この後予定はありますか？」と聞いてきました。「ないですよ。」と応えると、「じゃあ、もも組のコンサートを見てください。」と誘われました。中に入ると、お客は私一人のようです。子供たちは、園のみんなにコンサートに来てほしいようです。今までもみんなで放送を使ってコンサートの呼びかけをしていた経験から、放送に出かけようと声が上がりました。その時、Ａちゃんが、「私、ここで園長先生を守っているから、行ってきて。」と、他のみんなに伝えました。もも組の子たちの放送が始まると、「これは、〇〇ちゃん。次は□□ちゃんの声だ。」と、友達の声が流れてくるのをとてもうれしそうに聞いています。本当は、一緒に放送したかったと思うのですが、実に満足そうなのです。

Ａちゃんは、きっと、自分が誘った園長を教室に残したままにして放送に行くより、放送は他のみんなに任せて園長の対応をしようと思ったのでしょう。Ａちゃんは、仕方なくやらされるのではなく、自分で決めて行動しています。そして、自分だけ違っていても、そして一人でいても大丈夫、という仲間への安心や信頼関係ができているからこそ、Ａちゃんは、笑顔で満足そうにしていたのだと思います。

集団の中でこそ、個は育つ。しかし、だからといってどのような集団でも中に入れさえすれば育つと言うことではありません。一人一人が生きる集団、集団の質が問われるのです。この３歳児学級の子供たちは、どのような経験を積んできたのでしょうか。担任から、次のようなエピソードを聞きました。

「先生！座るかもやりたい！」と椅子取りゲームのリクエストがあり、みんなでイスを並べます。その後、担任がイスを１つ減らすと、大ブーイングが起きました。話を聞くと、「負けるの嫌なんだもの」とのこと。イスは減らさず、イスの周りを歩き、笛の音で座り、また、イスの周りを歩き･･･の繰り返しだったようです。でも、どの子も笑顔で楽しんだようです。

以前そのゲームをした時は、イスが一つずつ減っていく生き残りゲームのようなイス取りゲームだったのでしょう。その経験から、イスを減らさないでほしいという要望が出て、みんなで納得してゲームをしていたことが分かります。

一人一人が生きる集団になるためには、子供たちが安心して自分の考えを伝えたり自分を発揮したりする環境をつくり、子供たちの様々なサインにこめられた思いや良さを受け止め、みんなが納得する経験を積ませるという、学級集団の質を高めていくことが必要です。

☆作品展～子供たちの個性が、遊びが見える～☆

５歳児まつ組は、子供たちが「〇〇研究所遊び」をしている教室そのままが作品展です。研究所の研究結果が、子供たちの言葉で、文字でまとめられています。手に取って見ることもできます。

４歳児うめ組、３歳児もも組も、遊びに作成した道具やセット、衣装や髪型なども立派な作品です。作品展が終わってもそのまま遊びが続いていきます。

また、各クラスが春から描きためてきた絵画も掲示しました。筆の勢いから、楽しさが伝わってくるような作品でした。

ＰＴＡの役員さんが、今年度もお団子などの販売の他に、お楽しみの販売も行ってくださいました。クジを引くと、カランカランの大当たりの音が。ハロウィンのデザインの袋の中に、お楽しみが入っています。

早速、袋の中を出して園庭で遊んでいる姿がたくさん見られました。楽しい作品展になったようです。

役員の皆様、ありがとうございました。

☆親子安全教室☆

１０月２８日（火）に親子安全教室を行いました。市の交通安全専門官、安全教育指導員をお招きして、子供の安全を守るための交通安全について親子で学びました。

最初は、保護者向けの指導を、後半は園児と保護者一緒に道路の渡り方、駐車場の約束を映像を見たり“できるにゃん”の猫のキャラクターとのやりとりをしたりして楽しく学びました。

最後に横断歩道の渡り方や信号の見方など学んだことを横断歩道マットを使って親子でも子供だけでも実際に歩いて実践しました。大事な命の勉強です。みんなで命を守れるようにしたいですね。